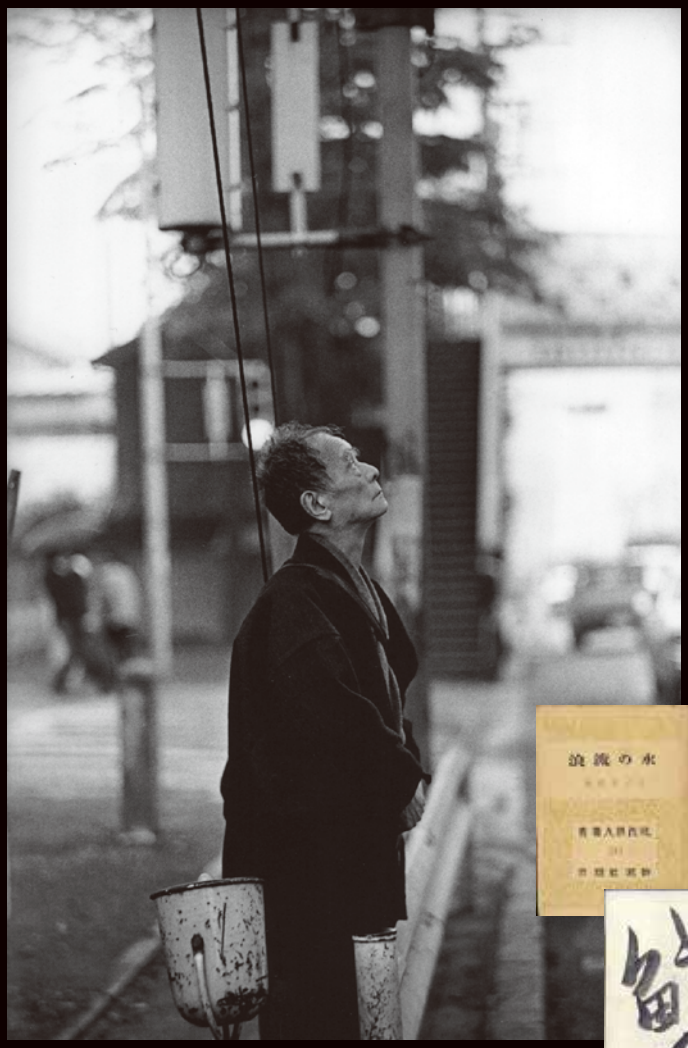
流浪の詩人 金子光晴展

トークイベント

金子光晴は、明治28年に愛知県海東郡越治村（現・津島市）で生まれました。幼少の頃、名古屋に移住して養子に出され、養父の転勤によって京都や東京で暮らしました。中学の頃には絵画や文学に熱中し、次第に詩作に傾倒して大正8年に、第一詩集『赤土の家』を刊行、第二詩集『こがね蟲』で詩人としての名を確立します。続く第三詩集『水の流浪』に収録された一部の作品は、関東大震災にみまわれ名古屋市東区清水町の作家・牧野吉晴宅に滞在していた頃に執筆されました。

森三千代と結婚してからは、東南アジアやヨーロッパを足かけ5年にわたって夫婦で放浪し、その影響は代表作である詩集『鮫』や紀行文など、後年の作品にも表れています。

没後45年となる今回の展示では、詩集や海外紀行文を中心に、流浪の人生を歩んだ詩人の生涯についてご紹介します。



撮影：峠 彩三（木村 宇宙野草）

上：『水の流浪』（新潮社）
下：『鮫』（人民社）

『金子光晴画帖』
（三樹書房より）

第二部では、海外放浪の逸話やその影響について、第二部では、初期からみられる詩の特徴や変遷についてそれぞれお話しいただきます。

日　時：2021年2月13日（土）13時30分～15時

講　演：第一部／「創作の源泉としてのアジア体験」中村誠

第二部／「金子光晴 放浪と詩の軌跡」中原秀雪

会　場：文化のみち二葉館 1階大広間 ※入場無料（要入館料）

定　員：先着30名 ※1月23日（土）10時～ 文化のみち二葉館に電話申し込み

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止または変更になる場合があります。

出演者プロフィール

【中村 誠（なかむら まこと）】

1954年名古屋市生まれ。日本近現代文学を研究。著書に『金子光晴〈戦争〉と〈生〉の詩学』『山の文芸誌「アルプ」と串田孫一』。論文に「金子光晴「富士」の教材的意義」など。中部大学非常勤講師。

【中原 秀雪（なかはら ひでゆき）】

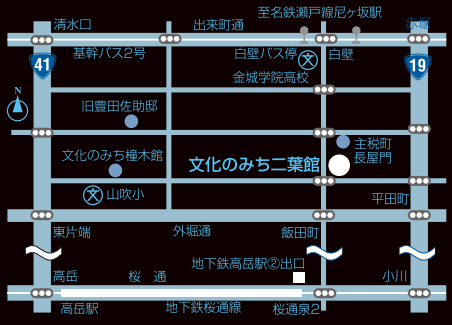
1950年山形県生まれ。広島大学文学部哲学科卒業。名古屋市在住。詩集に『星のいちばん新鮮な駅で』、評論集に『モダニズムの遠景』など。詩誌「アルケー」代表、「丸山薫賞」運営委員会会長、中日詩人会副会長。

主催・お問い合わせ

文化のみち二葉館
【名古屋市旧川上貞奴邸】

名古屋市東区橦木町3丁目23番地
Tel & Fax 052-936-3836
https://www.futabakan.jp/

「トニチエコきっぷ」「一日乗車券」
を利用してご来館の方は入館料割引！一般200円→160円

交通のご案内
- なごや観光ルートバスメーグル「文化のみち二葉館」下車
- 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
- 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
- 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分

※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。